



新しく選出された日本共産党都議団と衆議院東京比例区候補
(7月5日 新宿駅前) 赤旗写真部提供

野党共闘の力が姿を現した東京都議選 総選挙が近い中で同盟の存在を示そう

総選挙の前哨戦とも言われた東京都議会議員選挙が終わった。コロナの感染拡大が続く中での選挙では、医療関係者や世論の心配や懸念を無視して強行されようとしているオリンピック・パラリンピックの開催の是非をはじめ、4年間の小池都政が問われることになった。

築地市場移転での嘘から始まり、コロナ対策では自公政権と瓜二つで二人三脚のような無策ぶり、テレビで目立つようなことには熱心だが、都合が悪くなると姿が見えなくなるということを繰り返して、多くの都民がコロナ禍で苦しむ中、感染症対策での中心的役割を担う保健所を削減し、対策の最前線に立つ都立病院・公社病院を「命より利益優先」の独立法人化しようとする小池都政の、自公政治とまるで変わらない姿も明らかになってきた。

都議選の結果、第一の特徴は「市民と野党の共闘」の前進であり、それが次のステップへの確かな足場であることを示している。初歩的な野党共闘ではあったが、十分に力を発揮したのである。

第二の特徴は、小池百合子都知事と都民ファーストの「化けの皮」が半分割がれたことである。まだ半分剥がれていないともいえる。そこに首の皮がつながった小池氏の役割が見えてくる。なんといっても4年前の都民ファースト大勝から、民進党の前原氏や連合と組んで「希望の党」を起ち上げ、あつという間に民進党を崩壊させた立役者でもある。

野党共闘の破壊こそ、今やなんのプラス要素も見当たらない自公政権の唯一の延命策になりつつある現在、さまざまなライバルとともに、そこに「私の生きる道」を見出すのかもしれない。

いずれにせよ、2、3カ月後には間違いない総選挙である。私たち同盟は多くの民主的諸潮流と力を合わせ、「市民と野党の共闘」の流れを押し進めていこうではありませんか。その中で、まだまだ知られていない国賠同盟の存在も大いにアピールしていきましょう。

不屈

東京都本部
「不屈」No.565付録
東京版No.466
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

〒113-0034

東京都文京区湯島2-7-8
芳音お茶の水ビル1F

電話 03(6240)0283

FAX 03(6240)0284

振替 00100-5-99628

E-Mail tokyo-chian@

bz04.plala.or.jp

ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

- 一、治安維持法体制の復活に反対する。
- 二、国は、戦前の治安維持法が人道に反する悪法であると認めること。
- 三、国は、治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償を行うこと。

会長 吉田 万三

都議選は野党共闘が具体的に目に見えらたかといっています。この文京区では立憲民主党は候補者を立てず、福手ゆうこう候補を応援しています。都議選で勝利し、野党共闘を大きく前進させる契機にしましょう。また、コロナ禍で五輪を強行するのが大きく問われています。共産党はオリンピックを中止し、コロナ対策に集中を「オリンピックよりのち優先に」と闘っています。とりわけ90万人もの園児・児童・生徒を動員する

学校連携観戦をやめさせることが大事です。だれひとり取り残さない東京をつくるために頑張ります。日本民主青年同盟東京都委員会委員長 新田 祐也

民青同盟都委員会は、コロナ禍で青年学生の命と暮らしを守るために奮闘しています。全都で2,000人を越える学生・青年から対面・郵送でアンケートをとり、深刻な生活実態が明らかになっています。

学生からは「親の経営する店舗がなり立たず、仕送りがなくなった」「アルバイトがなくなり生活が困難になった」「青年労働者からも「以前は残業代で生活がなり立っていたが、残業がなくなり必要な収入が確保できない」「テレワークで出勤時に残業を強いられる」など青年・学生の中に生活困難が広がっています。民青の運動の中で、この間に大きく広がったのが学生への食糧支援活動です。昨年の6月以降、260回開催し、7,300人以上が利用し

ています。「お米ただでもらえるのですか」「生理用品めっちゃ助かる」「ゴミ袋一つでも自分で買うとお金がいるので助かる」と驚きと感謝の取り組みになっています。50人、100人と列をつくるのは終戦直後を除き、初めてではないかと先輩から言われます。食料を受け取るだけでなくボランティアで手伝う学生も現れ、助け合いの輪が広がっています。

青年学生が自己責任論を脱けだそうしているのを感じます。このような実態があるにも関わらず検査や補償をせず、必死の努力を続ける医療従事者をオリンピックで現場から引き離そうとする菅政権は許せません。必要なコロナ対策もせず、青年が望んでもいない改憲に走り国民投票法を改正するなどはもつてのほかです。

民青同盟は総選挙で野党連合政権を実現させるために、総選挙と直結する都議選を重視して取り組んでいます。自分の生活を守るための選挙だと周りに広げたいとながった青年は自らの問題として取り組み始めています。

第44回都本部大会選出役員			
よろしく願います			
会長	吉田 万三	豊島 石嶋 晴美	
副会長	菅野 亨一	練馬 渡辺 重光	
事務局長	中嶋 育雄	板橋 永田 佳	
事務局長次長	濱谷 正支	江東 猪又 武夫	
(新)	中村 茂樹	板橋 森山 康平	
(新)	和泉 寿子	足立 高橋 陽子	
事務局	矢野 利直	葛飾 志賀 正	
名譽会長	山崎 元	江戸川 横山 一行	
理事	新宿 阿部 俊雄	立・昭立山 正	
顧問	目黒 菊池 誠一	八王子 本條 洋子	
	目黒 森 美彦	北區 宇都宮 章	
	世田谷 楠見 宏義		
	世田谷 山田 純江		
	世田谷 内野 明和		
	豊島 安藤 郁子		

都議選につづき、総選挙で勝利し、45周年第45回都大会を最高現勢で迎えよう

4月3日の3つの国政補欠・再選挙がホップで、都議選でステップ、そして総選挙がジャンプと、大きく躍進して野党連合政権に道を切り開こうではありませんか。今大事なことはワクチンを安全に推進し、検査を拡大し、十分な補償と生活支援を一体にして進めることです。医療機関への支援を強めることです。さらに大事なことは五輪を中止してコロナ収束に集中することです。都議選は何度も都知事に要請しましたが、科学無視、自己責任のコロナ対策を続けています。その小池都政を支えてきたのが自公都民ファーストです。自公都民ファーストと全面的に対決してきたのが共産党です。都議選勝利で安心と希望の東京をつくりましょう。都議選と一体になった総選挙の激しさもまっています。前回、希望の党による共壊壊の総攻撃は記憶に新しく、総選挙は支配層の攻撃、共壊壊も激しさを増します。コロナ禍の都議選と野党連合政権をめざす総選挙をたたかう方針確立の都本部大会に日本共産党も一緒に頑張ることを表明します。

【第1回理事會概要】
大会時の続きを6月16日に開催。各支部の活動と都議選の動向について交流しました。
大会決定にそい、支部は国会請願に向けて、団体要請時に時間をかけて懇談し、署名の意義を理解してもらう努力をする。45周年をどう迎えるかを議論し、1300人達成に向けて月1回の行動日を

【連帯の挨拶】

日本共産党東京都委員会
副委員長 望月 康子



コロナ禍の中で、改憲を許さない闘いをはじめ活動の前進に奮闘されていることに心から敬意を表します。

昨日は入管法の改正を国民世論の高まりで廃案に追い込みましたが、高齢者医療2倍化をはじめ、病床削減法、国民投票法改定や土地規制改正法など「無能に見えるが、やるべきことをやる強権政治の菅政権」と吉田会長が機関紙に書かれていた決める。21年度会費請求を直ちに

決める。21年度会費請求を直に行う。伊藤千代子の上映運動を強め上映権目標20口をめざす。などを決めました。また、声明「改憲手続法改正案の採決強行に抗議する」を確認し、首相と自公両党本部に送付しました。

第2回理事會は7月21日13時30分から文京区シビックセンターで開催します。

私と同盟の国際連帯の旅で親しくなった大阪在住の絵手紙ライター中村千恵子さんから「個展をするので時間があつたら見てほしい」と、遠慮がちな案内をもらったのは2017年の6月。遠い東京に来ての開催なのだ、是非見たいと足を運んで驚いた▼全紙大の紙面にびっしりと絵と文が書いてあり二部屋にわたり展示されていた。そこにはアスベスト裁判の傍聴と闘いが、被害者、家族、弁護士、支援者の表情から発言、裁判と報告集会など、順に簡潔にしかも見やすく書き（描き）込まれていた▼被害者と家族の証言に泣かされた。過酷な病状もさることながら石綿が命にかかわる危険なものと充分に知りながらマスクもせず長時間働かせてきた企業の姿勢に心底怒りがわいた。命の軽視！日本社会の底流にある人権無視。これは本にして多くの人の見ても見たいと感想を話して帰ってきた▼今年4月。ついに『アスベスト絵伝』として出版された。「大切なもの それは命」と叫んでいる。多くの人の見ても見たい。

（風）

そして、学生との対話で特に顕著なのは、資本主義に疑問を持ち自分の生き方を見直している青年学生が多くいることです。「自分も社会に役立ちたい」「社会をよくしたい」という思いが青年に広がっています。

「資本主義は格差を広げる」「資本主義と社会主義でもない社会を考えたい」と社会の在り方そのものが問われている今、社会主義の展望を学び、行動する民青同盟の頑張り時だと感じています。

歴史の後戻りを許さず、青年の展望を切り開くためにともに闘いましょう。

日本国民救援会東京都本部

事務局長 藤田 力



初めて都本部大会に参加しました。

私どもも昨年、コロナで大会延期となりました。国賠同盟が工夫して大会を開かれていることに敬意を表します。

コロナの関係で建物や食堂に入る際に体温を検査します。ビルに入る

ときに体温を測るカメラが取り付けられています。その場合、顔面積が大きいと正確に測ってもらえるのかなと思って、マスクを下げてカメラに向かうと「適温です」と言ってくれたが、「マスクをきちんとつけてください」とマスクを正しくつけていないことを指摘されます。これは画像のAIシステムが画像を検知し判断しているのですが、こういった機器が市販されていることがわかります。

この度政府はデジタル庁を設置しましたが、そういったAIに関して私たちの個人情報やさまざまなところで蓄積され、分析され、それが監視につながります。

国公法弾圧事件の堀越事件や自衛隊の監視事件、そして今闘われている滋賀県大垣市で警察が市民を監視していた事件があります。警察や自衛隊の手足を使って情報収集をしていたが、今回の法案でどうなるか、すべてインターネット経由で情報がつかめる危険な情勢となっています。一方、世界を見てみると、EUにAI規制を作る動きがあります。個人情報に関し一定程度規制をかける法制度を作る動きを進めています。私た

ちもAI規制やデジタル庁を監視監督する機関を作ろうと考えています。イベントを企画しているとき、コロナ禍の情勢が神戸事件の関東震災当時の状況と類似している様に強く感じます。共青の川合義虎さんが被災された人に食糧支援を行う、働く権利を守るために運動を行う。さきほど民青の新田さんが報告したフー

ドバンクの運動が、100年近く前にもあったんだなど。そういった時代の中、日本国憲法でなく、明治憲法下で一生懸命活動されていた。そのあと治安維持法で、救援会も大弾圧を受けながら、救援し闘ってきた。そのような長い歴史を持つて現代にいたっている。そういった点では若い人たちにどう伝えていくか。今は過去と現在、非常にわかりやすい情勢です。私たち救援会としても大先輩であるみなさんのいろいろな経験や知恵を吸収していきたい。

そして今年都議選・衆議院選挙があります。選挙・政治活動の自由を守るために救援会としてもみなさんと一緒に頑張って頑張ります。

【大会議案の提起と議論】 20年度の活動報告と運動方針

事務局長 中嶋 育雄



昨年の43回大会と同じく代表者会議となりましたが、区切りの大会を持つことは非常に大事です。

この間の各支部の活動経験から学ぶことが大切です。役員会を定期的に行き、前進を勝ち取った都本部は1,201人まで到達している。コロナ禍の中でも前進しました。みなさんの奮闘に敬意を表します。

「会員拡大と署名到達」「各支部の8・15宣伝と伊藤千代子の取り組み」の資料を見て下さい。コロナ禍の中でも伊藤千代子の映画製作の各集会は10回開かれ、8支部で取り組まれました。その中で会員が24人増えています。全体の40%が伊藤千代子の講演会・学習会で増えている。ここから私たちはしっかりと学ぶ必要があります。

特に新しく誕生した東村山支部は2年前の7人から40人と大きく前進しています。支部でよく議論をして行動計画を決めて取り組んでいる。

結成総会に非会員が19人参加。当日とその後の働きかけで7人が入会し、2回目の伊藤千代子講演会を含めて12人を増やしています。この東村山支部活動の教訓は、役員が積極的に同盟活動の重要性を学習し、広げることです。

情勢については来賓や会長からも話されたように「再び戦争と暗黒政治を許さない」わが同盟の今の闘いの重要性を改めて学びました。その運動の中心に伊藤千代子の映画製作の取り組みがあります。権力が戦争遂行のために反対勢力をすべて牢獄にぶち込んで虐殺までする。帝国議会で山宣が追及した3・15事件の拷問について、当時の法務大臣は「天皇の警察がそんなむごいことをやるはずがない」と答弁している。帝国議会でも公然とは虐殺・拷問を認めることはできなかった。しかし今の政府は問題が明らかになっているにもかかわらず、「あれは適法だった」と言っているわけです。こういう人間がデジタル法を進めようとしている。菅首相がトップになり国民の行動を掌握する。こんな独裁的な男が全国民を掌握したらどうなるかと

いう問題として、断じて許せない内容を持っているわけです。

その意味で都議選・衆議院選は非常に重要です。私たちの要求実現のためにも支部会員が丸となって全力を挙げて闘い抜くようにしたい。

大会の特別決議として「都議選・衆議院選に勝利し野党連合政権の実現」と「菅首相の悪政への抗議」の2本の特別決議を提案します。

今年一年の活動を「写真で見える活動」として綴っています。来年は日本共産党は100周年を迎えますが、都同盟は45周年を迎えます。40周年の会員数は約850人でしたが、2年かけて1,000人を突破しました。その後多少減少しましたが、それを克服して1,201人で今大会を迎えました。45周年に向けて1300名の実現にみなさんの奮闘を期待したい。

この活動で強調したいのは「よく学ぶ」ということです。今の情勢と治安維持法の歴史をみなさんと一緒によく学び活動することが前提条件です。各支部で毎月必ず行動計画を立てる。45周年に向けて毎月計画を立てて行動すれば、必ず1,300

名に到達すると思います。そのため学習や議論をぜひお願いしたい。

決算は、仮決算で88,000円のプラスですが、中央への未払いがまだ計上されていないので、実質は赤字の見込みです。借入金長期にわたって固定化しています。この返済を含めて短期長期の財政計画が必要で、新理事会で会計監査の提言を踏まえ委員会を設置して検討し、根本的な解決を図るようになります。

収支の特徴は、会費納入率は各支部の奮闘で改善してきていますが、昨年は寄付金を含めて夏と冬の募金が150万円でしたが、20年度は、夏冬75万円(前年比52%)だったことです。コロナ禍の問題が影響していると思われます。全会員に支えられて活動できる都本部をめざして募金も工夫して取り組んでいきたいと思ひます。支部での積極的な議論をお願いいたします。

会計監査報告

会計監査 柿沢 繁

会計実務は適正に処理されていますが、経常財政の黒字化へ根本的な改善が必要です。収入対策7つ、支



出対策3つを提言します。

コロナ感染対策の慢性的な赤字財政の抜本的改善が必要です。会員拡大は組織存続の最重要課題です。支出の見直しが必要です。例えば、会費やカンパの支部還元金制度を見直し、収入を確保して赤字の解消を行う。還元金問題は支部財政に影響が出るので議論と調整が必要です。都本部の健全財政確立は組織存続にかかわります。各支部との合意を得る努力が都本部に求められます。

また、伝票が整理されてきたことから、どこが問題なのかが見えてきました。例えば、支部還元金の未払いですが、ないお金を支部に還元するということなので、これはできないでしょう。なぜ支部還元金制度があるのかです。よく検討してもらいたい。募金の還元もあります。還元なしで納めるべきではないか。三役と事務局で財政対策委員会を設置して財政健全化のための提案を至急計画する。これが補足的な監査からの提案です。

課題ではないのかと考え、お二人が同盟に加入されました。

私は全国30県くらい回ってきまして、この中で100人位の方たちが同盟に入会されました。また、北海道の野党共闘で当選された松木さん、長野での共闘の羽田次郎さんが、長野での共闘の羽田次郎さんが、請願への紹介議員を引き受けられました。いま確実に同盟への共感が広まってきていると実感しています。

いま皆さんが一番心配しているのは、新型コロナの暴走の中で本当に映画製作が進められるのか、その製作資金は作れるのかという事です。私たちは、10月開始の撮影はオールロケに近い形で、出費を圧縮して製作を進めることを検討し実行に移しています。例えば、松本には、民主勢力の力で旧裁判所が保存され、独房も残されています。こうしたところを活用することで、皆さんが汗水を流して集めてこられた貴重な資金を有効に使います。

この映画製作・上映運動は、同盟が掲げる「2020年代に治安維持法体制に決着をつける」という課題に大きく貢献できるものとなる事でしょう。

【閉会あいさつ】



非常に短時間の大会でしたが、今回新しく北区の宇都宮さんが

理事を引き受けていただきました。とはいっても北区は大変だと思えます。都議選、衆院選と野党共闘の進化が試され、大変だと思えます。てんやわんやの時期にいまから突入することになるわけですので、みなさんで大いに協力して援助していききたいと思えます。

今日の発言の中でも触れられていましたが、非常に困難な中でも支部の活動が着実に進んでいる。その中心になっているのが、伊藤千代子の映画製作運動を通じて、いままでも同盟運動につながりがなかった人が同盟に参加してもらっている。こういう経験があちこちで生まれてきていますから、ぜひこういう点も大いに学びながら進めていきたい。

とはいえ今年は、都議会議員選挙が迫り、総選挙もあります。「大変だ大変だ」というだけでなく、選挙戦の中でも新しいいろいろな人たちが

会長 吉田 万三

との出会いやつながり、結びつきが生まれてきます。同盟運動とかみ合わせて、ぜひ活動をすすめたい。

繰り返し強調しますが、本当に新しい社会に足を踏み出していく、これは我々の世代だけでなく、若い世代と一緒に新しい時代に足を踏み出すことで、同盟の活動の意義、また伊藤千代子の映画の意義を若い世代に大いに語って一緒に闘いの中で活動が前進していくことを心がけて、私たちの活動を進めていくことが本当に大事になっています。

私が言うまでもなくみなさんはいろいろと工夫して活動している、コロナの中ですが、ぜひ力を合わせて活動を前進させていきたい。

限られた時間の大会でしたが、みなさんの協力で意思統一ができました。これから本当に大変な激動のひと月ふた月を迎えますが、十分に健康に注意しながらみんなで頑張っていきたい。この点を強調し、まとめとします。

どうもありがとうございました。

川柳

植竹団扇選

つなぐ手に寝たまま歩く子の重さ

新宿区 阿部 俊雄

公明党嘘と脅して稼ぐ票

荒川区 風間 秀子

短命内閣覚悟のうえの開幕か

豊島区 藤本 増美

観戦で感染必至如何せん

練馬区 中村 茂樹

別枠の抜け道もある一万人

八王子 清水 邦治

いのち犠牲に五輪強行する政治

足立区 高橋 陽子

中止しか残る道なしリバウンド

中野区 中嶋 育雄

オリパラへの子らの動員腰を折る

団扇



【読者からの投稿歓迎】